

混合交通を観察する

DOCUMENT EYE

140



観察地点 / 東京都新宿区西新宿6丁目交差点
観察日 / 9月14日(金曜日)
天候 / 曇り
観察時間 / 11:30 ~ 12:30
観察者 / 4名

携帯電話を使うクルマ・歩行者を観察する

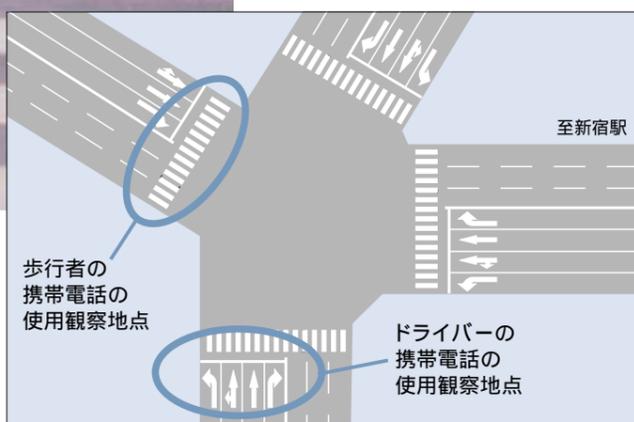
信号待ちで携帯電話を見ていたドライバー4人、横断歩道で携帯電話を見ていた歩行者17人

WHY

携帯電話を「見る」人が増えている?

日本における携帯電話の普及はめざましく、現在では小学生から高齢者まで幅広い年齢層で利用されている。

携帯電話の普及とともに運転中に携帯電話を使用して交通事故を起す例



が多く、死亡事故さえ発生している。さらに、最近ではメール機能を備えた携帯電話が増え、歩行者やドライバーが長時間携帯電話本体を「見る」(凝視する)姿をよく見かける。

線使用が1例だった。歩行者の場合はどうか? 青信号で横断歩道を渡ったのは1092人。このうち携帯電話等を使用したのが46人だった。内訳は携帯電話で会話をしていた歩行者が29人、メールなどのチェックなどを行ないながら横断歩道を渡った歩行者が17名だった。その多くは女性だが、50代と思われる男性も見かけた。携帯電話を使用した歩行者は数多かつたが、大半は信号が青に変わると同時に携帯電話の使用をやめていた。

WATCHING

携帯電話に意識と視線が集中、周りに大きく遅れをとる歩行者目立つ

観察場所は東京の副都心、西新宿6丁目付近。高層ビルが立ち並びこの一帯には商用や物流のクルマなどが数多く、昼休みの時間帯ともなるとOレやBビジネスマンなど歩行者の数も一段と増加する。また、副都心内の東通りと北通りが交差するこの交差点は片側3車線と片側4車線の計7車線ずつが交差しており、横断歩道の距離もかなり長い。

観察は、ドライバーと歩行者の携帯電話等の使用状況について行なった。

まず、クルマに関してだが、総通過台数1101台(二輪を含む)のうち、走行中に携帯電話等を使用したクルマは24台、ハンズフリー装置利用は1台で残りの23台は片手で携帯電話を持ちながら運転していた。また、通話しながら右折した三輪の原付(ライダーは若者)も1台観察された。走行中にメールなどをチェックするクルマはみられなかった。

一方、信号待ちで携帯電話等を使用していたクルマは6台。内訳は携帯電話を見ていたのが4例、信号待ちでバッグから携帯電話を取り出してメールのチェックを行っていたスクーターの若い女性もいた。この他、タクシーの無線による会話1例、大型ダンプカーのケーブル無

PROPOSE

運転中はドライブモード、歩くときは周囲の安全をよく確認して

今や携帯電話は多くの人の必需品になっている。使っていない人も携帯電話を手持っている人も目立ちつつも対応できるよつにしているよつに思われた。また、メール機能付きの携帯電話が増えている今日では携帯電話は「話す」から「画面を見る」ものへと形態が変化している。「見る」機能が主流となった携帯電話の登場で、運転中や歩行中にはこれまで以上

	総合数	走行中	停車中	計
乗用車	422	9	2(2)	11(2)
商用車 タクシー	540	14	2(1)	16(1)
大型トラック バス	49	0	1	1
二輪車	90	1	1(1)	2(1)
計	1,101	24	6(4)	30(4)

	会話中	携帯電話を見ていた	計
	29	17	46



に見ない。見ていない視線をそらした脇見、状況が生まれることが考えられる。メールや会話に夢中になると注意力が散漫となり、脇見運転と同様の状態になることから、「正しく見る」といった基本の動作ができず、大変危険な状態となる。運転中は携帯電話の電源を切るかドライブモードに設定しておく。歩行中は歩道の端に寄る。使用中は横断歩道を渡らないなど、自分の安全だけでなく周囲の迷惑にならないための配慮が必要である。